

平成30年度富山きときと空港の歳入・歳出状況

(キャッシュフローベース)

○官庁会計によるキャッシュフローベースの歳入・歳出状況

富山空港の経費は県一般会計で処理されており、国の算出方法に準拠して、歳入歳出決算から空港に係る現金の出納を抽出し試算。

(1)空港整備及び空港管理運営に係る歳入・歳出状況

単位:百万円

科 目	金 額
歳入項目	
着陸料等収入	196
土地建物等貸付料収入	39
国庫補助金等	22
一般会計受入(航空機燃料譲与税)	34
その他	0
歳出項目	
空港整備事業費	121
環境対策費	41
空港等維持運営費等	555
建物借料	30
国有資産等所在市町村交付金	4
歳入項目の合計	291
歳出項目の合計	751
歳入・歳出差額	△ 460

(2)空港管理運営に係る歳入・歳出状況

単位:百万円

科 目	金 額
歳入項目	
着陸料等収入	196
土地建物等貸付料収入	39
その他	0
歳出項目	
空港等維持運営費等	555
建物借料	30
国有資産等所在市町村交付金	4
歳入項目の合計	235
歳出項目の合計	589
歳入・歳出差額	△ 354

富山きときと空港は、県勢発展に不可欠な社会資本として整備され、富山県における航空ネットワークの起点として首都圏、札幌、東アジアのみならず、羽田経由で全国、世界各地とつながり、県民の利便性の確保、地域間交流の拡大、訪日外国人来訪による観光消費や国際交流拡大、企業立地の促進、半定住促進効果によって地方創生等に大きく寄与。

なお、経済効果・存在意義については、平成26年度富山きときと空港の収支状況で、定量的・定性的効果について整理しまとめて公表済み。